

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

枚方市立津田小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

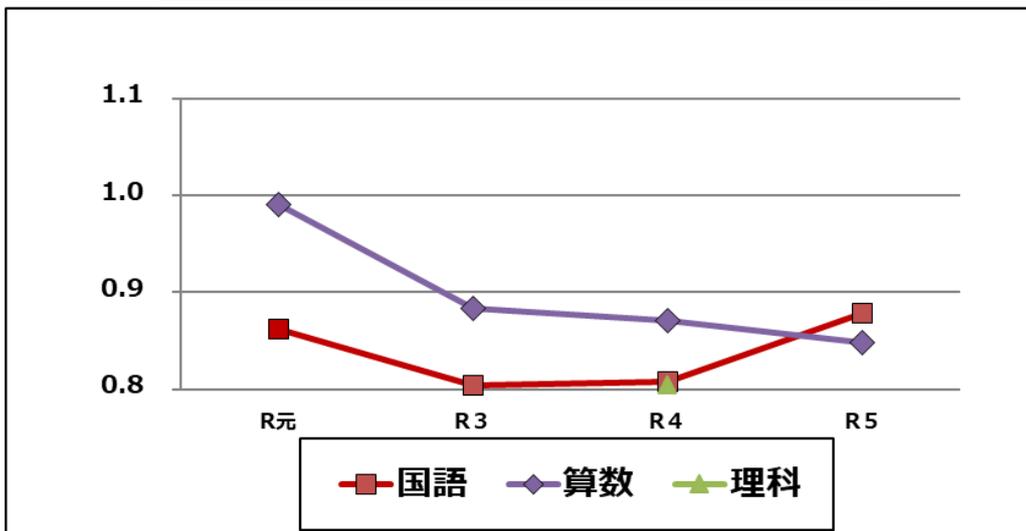
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

（全国の平均正答率を1とした経年比較）



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、令和5年度未実施の為、掲載していません。

<学力調査結果の概要>

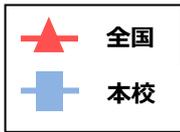
○国語について

→「記述問題」に課題が見られる。問題内容を理解し、条件に応じて自分の言葉で記述することを課題としている児童が多い。過去2年より数値が上昇したのは、「100文字作文」に全学年で毎月取り組んでいる成果と考える。「読み取る力」「書く力」とともに「自分の考えを話す力」も高めていきたい。

○算数について

→問題の意味や内容を理解すること、自分の考えを説明することに課題があることが分かる。説明し伝える学習の際に、図や表、絵やグラフなどを「積極的かつ適切に用いる」よう指導することで、説明できたという自信を付けさせ、説明する力を高めていきたい。

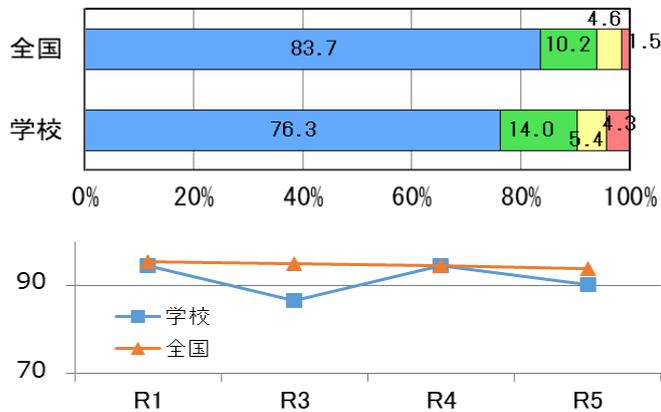
質問紙調査の結果



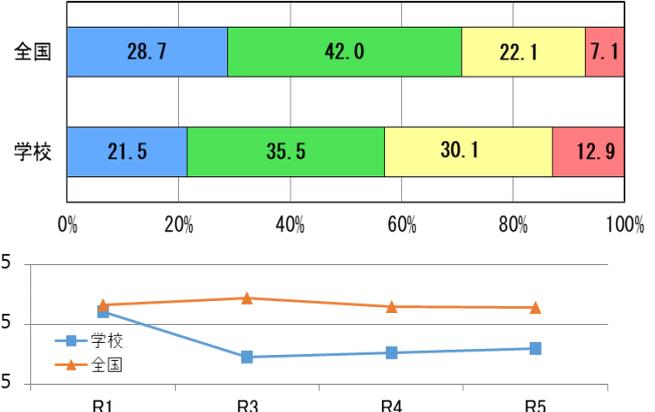
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします

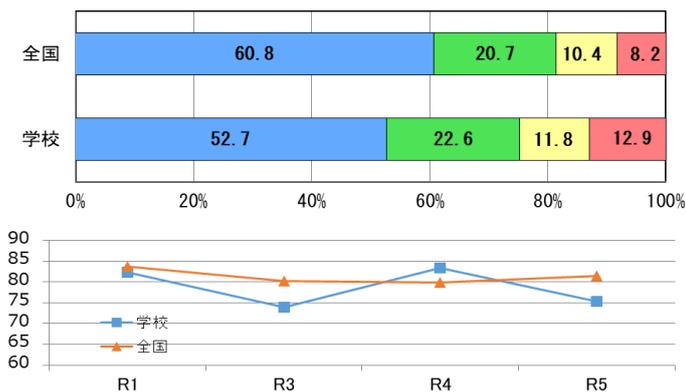
① 朝食を毎日食べている



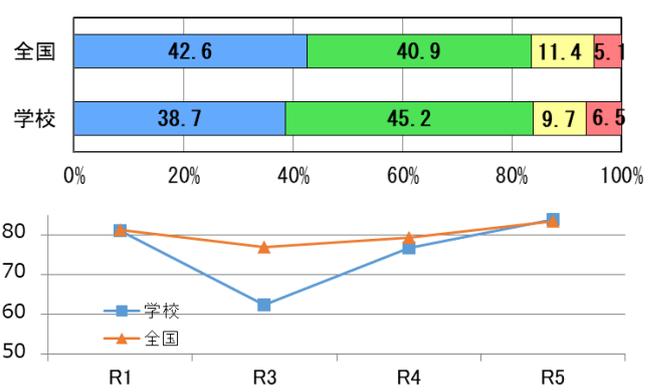
② 家で自分で計画を立てて勉強している



③



④ 自分には、よいところがあると思



<質問紙調査結果の概要>

- ①全国より下回っているが、90%以上が朝食を食べて登校できている。
- ②令和3年度より若干上向いてはいるが、全国より、10ポイント以上、下回っている。およそ半分の児童が、家庭において、自主学習に取り組めていない。
- ③昨年度、全国より上回っていたが、今年度は全国より5ポイント以上、下回っている。4分の1の児童が、将来に向けた目標を持っていない。
- ④令和3年度より上向いており、一昨年より約20ポイント上がっている。また、全国より若干上回っている。令和3年度より「いいところみつけ」等の学校全体の取組が成果を挙げていると考える。

まとめ

児童の自己肯定感の高まりは、令和3年度より学校全体での取組を継続して行ってきた成果である。「いいところみつけ」や異学年交流、日々の学級経営や学習活動等において、教職員一人ひとりが意識的に行っていることが、最も大きな要因である。このように、大人が子どもの成長に向けての取組を継続して意識的に行うことが、良い成果となって表れることは明白であることから、様々な課題に対しても、家庭や地域とも連携し、理解や協力を得つつ、三位一体で取組をこれまで以上に推進する。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

複数の本や資料を読み、自分の考えをまとめる。(運動と食事)

資料1・2・3を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。

《条件》

- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
- 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

	正答率	無解答率
本校	50.6	6.2
全国	56.2	8.5

(考察)

資料を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。

複数の情報を関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題はあるものの、昨年度の本調査で課題として取り上げた「字数制限や条件に応じて書くこと」を全学年で取り組んだ成果が正答率に表れている。(昨年度より14ポイントアップ。) 全学年で、課題を意識して取り組んだことで、「書く力」が付いてきたと考える。

【課題】

図表やグラフを用いて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書く。

5月下旬に学校の田んぼに苗を植え、6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りをしたが、以外と雑草が生えてきて、とてもこまった。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと比べてみた。期間は、7月1日から15日まで。その量の様子をグラフで表した。また、解決の方法をカード⑤に表した。

これらをもとに、学校の米作りの問題とその解決方法について、60字以上100字以内で書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	18.5	2.5
全国	26.7	7.1

(考察)

グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題である。

文章や図表等から、問題点とその解決方法を読み取ること、決められた字数で自分の考えが伝わるよう、工夫して書くことに課題がある。すべての教科において、自分が伝えたいことの要点を押さえ、分かりやすく工夫して書く方法を学び、ノートやタブレットに「書くこと」の練習を全学年で継続して取り組む必要がある。ただし、何かしら書こうとする姿勢が無回答率に表れている。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

テープを折ったり、切ったりして、できた四角形の名前を答える。

えいたさんたちは、テープの上の直線に垂直な直線で切って、四角形をつくれます。

まず、えいたさんは、下のようにつくり方で四角形をつくりました。

次に、ゆいなさんは、下のようにつくり方で四角形をつくりました。

上のつくり方でできた「四角形オカキク」は、どのような四角形ですか。その四角形の名前を書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	88.7	3.7
全国	87.2	3.0

(考察)

テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く問題である。

正方形の意味や性質について、正しく理解する必要がある問題だが、全国と比べて正答率が高い。

これまでの学習活動を通して、系統的に具体物を使ったもの作りをしたり、実物に触れるなど、体感的に図形を学ぶことを重視して取り組んだ成果であると考える。

【課題】

テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。

えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形を作ります。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、ど

のようなことが分かりますか。下の1から4までの

中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1・㊸の面積のほうが大きい。
- 2・㊹の面積のほうが大きい。
- 3・㊸と㊹の面積は等しい。
- 4・㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

	正答率	無解答率
本校	7.4	1.2
全国	20.8	3.6

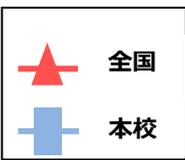
(考察)

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて、記述する問題である。

三角形の面積の定義、特に平行線の性質を基に、高さを表す垂線が、三角形の外にある場合と内にある場合を正しく理解する必要がある。様々な形の三角形の面積を求める問題を解く中で、底辺と高さがどこになるのかを、正しく判断できる力を付ける必要がある。

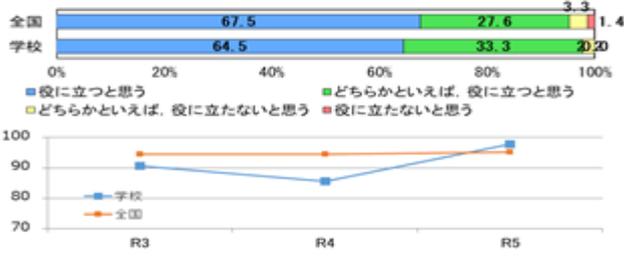
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

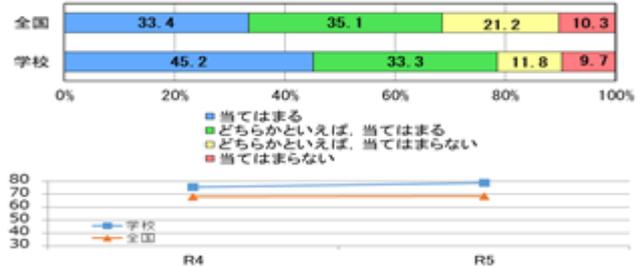


【成果のあった項目】

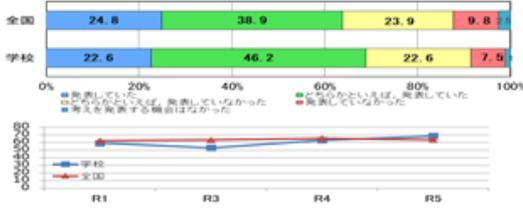
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



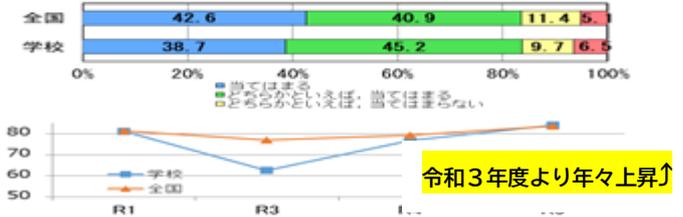
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



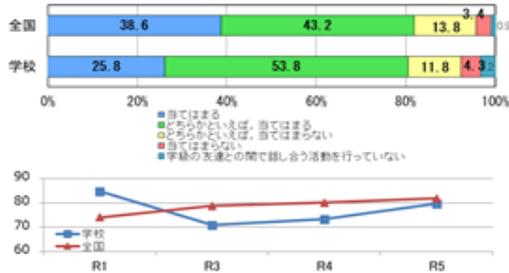
授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。



自分には、よいところがあると思いますか。



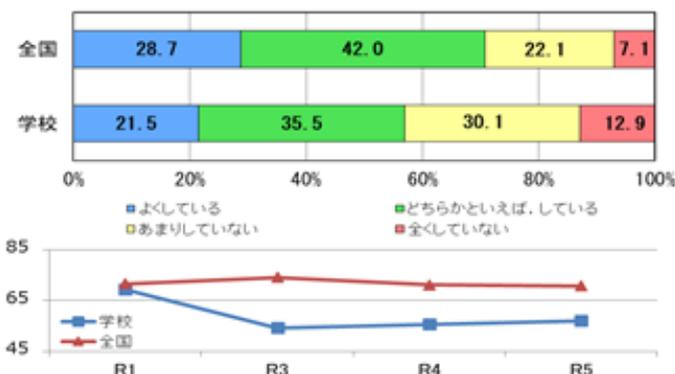
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



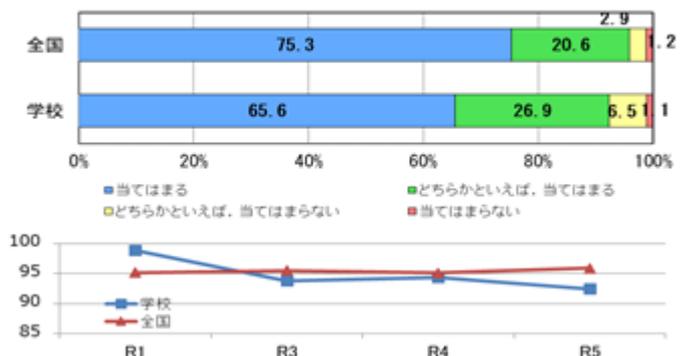
(考察) タブレット等の ICT 機器も活用した学習活動が定着し、その有効性を実感している児童が95%以上いる。また、自分の考えを工夫して発表していると感じている児童が約70%おり、全国平均より多い。国語科で、「書くこと」に課題があるものの、自分の考えを発表することを肯定的に捉えている児童が多い。今後、ICT 機器を活用して書いたり、話したりする活動を各教科等の学習で取り入れ、児童の自分を表現する能力を高めていきたい。また、「ノートに書く」「タブレットに入力する」等、**個別最適な学びの方法を自分で選択**して取り組める授業づくりをするためにも、児童の自立や自律を促すとともに、児童同士が、**自信をもって**学び合える安全・安心な集団づくりを系統的に取り組みたい。さらに、分からないこと、困ったこと等を、**安心して先生や大人に相談、質問ができるよう**、子どもと大人の信頼関係をより高めていきたい。最後に、**令和3年度より、児童の自己肯定感が年々上がってきていることが何よりも嬉しい。**

【課題のあった項目】

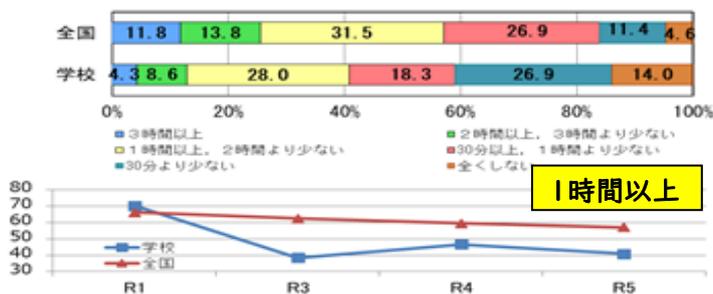
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。



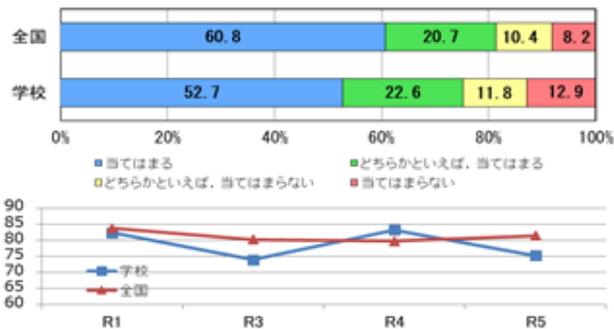
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。



将来の夢や希望を持っていますか。



(考察)「自分で計画を立てて勉強する」と「1時間以上、学校の授業以外に学習する」とは、児童の「**自ら学びに向かう姿勢**」を表している。特に、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていない児童」が12.9%、「学校の授業以外で、全く勉強しない児童」が14%いることは、大きな課題である。学校での学習活動に対しては、年々、意欲的に取り組む児童が増加している。(質問紙調査の経年比較から。)このことから、「**学習のやり方**」「**自分の課題の見つけ方**」が分からないため、**家庭学習や自学自習に、取り組まないのではなく、取り組めない**のではないかと考える。また、「人の役に立ちたい」と考える児童が90%以上はいるものの、減少傾向である。「夢や希望を持っている」と考える児童が、今年度は全国平均よりし下回っている。本校の児童は、「与えられたこと」には誠実に取り組めるが、「自分から進んで行動すること」「自分で考えて行動すること」に弱さがあると考え。「宿題をして提出する」「忘れ物をしない」等、毎日、自分でしなくてはいけないことができるよう、その方法を身に付けるとともに、課題や困難なことから逃げず、自ら立ち向かう術を身に付けさせたい。そのためにも、**学校も家庭も、「過保護」にならず、「失敗しても自分でやり切る」経験を数多くさせる必要がある**と考える。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

校内研テーマ『「もっと学びたい」

～支援等を要する児童も含め、すべての児童がわかる授業づくり～』を意識して…

- ・毎日連絡帳を書く際に取り組んでいる「一行日記」を今後も続け、「書く力」を伸ばす。ひらがなやカタカナ、漢字の学習での言葉集めや絵本の読み聞かせの取組で**語彙力の育成**を図る。(1年)
- ・1年生で学習した計算練習を**毎時間**行って**復習**するとともに、引き続き、**自分の目標を決めて**取り組んでいく。(2年)
- ・国語の学習で、文章を読み取る時、「**キーワード**」に**線を**引き、**文章でまとめる**。また、大事な言葉を丸で囲み、それは何を意味しているのかを書き込む。文章からイメージを膨らませ手段として、心情グラフやイラスト・図などで表現させる。また、**社会科と兼ねて資料(グラフや表など)を読み取り、大事な情報を取捨選択する力**を身に付けさせる。わかったことや考えたことを伝え合う活動だけでなく、**文章で表現する機会**を増やす。(3年)
- ・算数の文章問題では、**大事な言葉や問われていることに印**をつけ、正確に問題を解けるようにする。また、**なぜ**、その立式になるのかを考え、**説明させる**。自力解決後の全体共有の際に、「**考え方**」を全員が説明できるようにする。教師は、算数的な見方で問題を捉えられるような問いかけをする。(3年)
- ・国語の授業を中心に、**要点(自分の伝えたいこと)を押さえた文章を書く活動**を取り入れ、書いた文章をペアや班、クラス内で読み合い、互いの文章の良かった点を共有する学習を定期的に行う。算数の学習では、自分の考えをペアや班で**説明する活動**を取り入れるなど、**協働的な学習活動**を中心に行う。(4年)
- ・算数では、「**なぜ、こうなるのか。**」を問いかけ、論理立てて答えを導き出したり、予想から答えに向かって解き方や考え方を説明するなどして、課題に向かって、**主体的に考えていこうとする姿勢**を育む。(5年)
- ・話し合いや伝え合いができるような場を設け、どの教科でも意見を交流し合い、**学び合える授業を展開**する。(5年)
- ・授業で話し合い活動や意見を交流する機会を多く設け、**自分の考えを明らかにして説明できる力**の育成を図る。(6年)
- ・算数の学習では、**問題の解き方や答えへの見通し**をもち、どのように解けばよいか考える時間を設け、**式や言葉、図や表などで自分の考えをまとめる力**を身に付けさせる。(6年)

(2) 家庭学習について

【学校全体として】

- ①「家庭学習のやり方」を低学年のうちに教えるとともに、定着させる。
- ②各学年における家庭学習の取組を通して、自分なりの学習スタイルを身に付けさせる。そのために、様々な方法を提示し、児童が自分に合った方法で取り組めるよう、指導助言する。
- ③家庭学習の意義について、保護者に対する啓発を行う。
- ④家庭学習に取り組んだことによる「効果」が実感できるよう、児童や保護者にフィードバックする。

- ・家庭での学習の取り組み方を家庭とも連携しながら定着させていく。(1年)
- ・タブレットを活用し、楽しんで取り組めるような宿題を出す。(2年)
- ・漢字の読み書きの定着に課題があることから、「読む・書く・正しく書けているかを確認する」方法を取り入れ、定着させる。「連絡帳」に自分の目標を掲げさせ、テストへ向けての家庭学習のやる気を持たせる。navima を活用したタブレット学習や自主学習(テスト勉強)をさせる。(3年)
- ・navima を活用したタブレット学習を宿題に出すなど、子ども達が意欲的に取り組むことができる課題を出す。自主学習では、学ぶ内容が分からない児童を減らす為に、自主学習の良い例を提示したり、自主学習を交流する取り組みを行う。(4年)
- ・自主学習の取組を続け、自分で目標やめあてを見つけていきながら、自主的・計画的に学習していく力を育成する。また、自主学習を発展していけるように、お互いに学習方法や学習内容を共有できる場も設定していく。(5年)
- ・学校での学習と家庭学習がつながっていけるように、タブレットを活用した学習内容の充実を図る。(5年)
- ・navima を活用し、問題を自分で選び活用する機会を設け、推進を図る。漢字や計算などの基礎的な問題の解法の定着させる。(6年)